

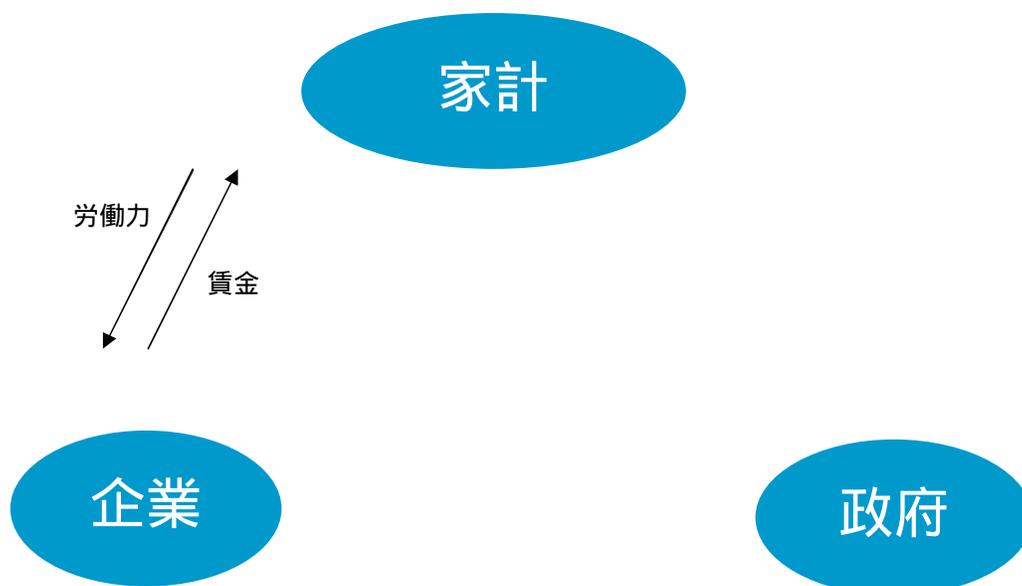
## マクロ経済学の基礎

学科・学年		学籍番号	
氏名			

### 問題1 (30点)

1	2	3	4	5
1	2	3	4	1
6	7	8	9	10
4	3	2	1	1
11	12	13	14	15
1	2	3	4	1

### 問題2 (20点) ホームページのパワーポイント参照。



問題 3 (20 点)

A	B	C	D
400	410	400	380

問題 4 (20 点)

SNAでは市場で取引されるものだけを原則として記述しているため、主婦労働は含まれないが、付加価値として計算に入れることは理論的に問題はない。

女性の社会進出が進むと、これまで主婦労働とされていた家事、洗濯、掃除などがビジネスとして市場で取引されるようになる。それによってGDPは理論的には増える。ビジネスとなるかどうかでGDPが変動することがおかしいという立場からは、主婦労働もGDPに算入することが考えられる。

主婦労働を計算する際の問題点としては、それぞれの活動時間をどう把握するか、その単価をどう把握するかという2つの問題がある。たとえば、「育児」とはどういう活動なのかは、定義によって異なる。また、その活動の代償としての賃金はどの程度なのかは、本来個人個人によって違う可能性が大きい。この新聞の例では、女性の時間当たり平均賃金を用いているが、会社での働く場合の賃金と同一という仮定はかなり大胆である。

問題 5 (10 点)